

寺田寅彦が詠み込まれた俳句

四宮義正

寺田寅彦は科学者であり文学者であった。その文学のジャンルと言えは主に随筆であるが、俳句も作っている。俳句に興味を持ったきっかけは「夏目漱石先生の追憶」に書かれている。師匠は夏目漱石であり、漱石は正岡子規につながっていた。よって五高時代の俳句は『ホトトギス』や子規の庇護者であった陸羯南の新聞『日本』に掲載された。その後、俳人の松根東洋城を知るようになり、連句や俳句を東洋城主宰の俳誌『渋柿』に出している。このように寅彦の周囲には俳句をものする人が多かったため、逝去時には追悼句が詠まれ、「寅彦忌」（12月31日）は季語になった。ここでは寅彦が読み込まれた俳句を集めてみた。（*は筆者のコメント）

1. 夏目漱石が寅彦を詠んだ句

寅彦が五高を卒業する時の2句、漱石病氣療養中の1句。

○寅彦桂浜の石数十顆^{つぶ}を贈り来しに（明治32年）

・涼しさや石握り見る^{たなごころ} 掌

○送別（明治32年）

・時くれば燕もやがて帰るなり

○漱石日記（明治43年10月27日）

晴。三時頃より目覚む。眠ったり覚めたりして例刻迄過ぐ。詩一首句一句を褥中に得。

・君が琴塵を払へば鳴る秋か

（寅彦のヴァイオリンの事を考へ出して）

*寅彦は欧州へ留学中、漱石は胃病で修善寺に転地して大吐血（修善寺の大患）の後、帰京して長与胃腸病院に入院していた。

2. 松根東洋城の見舞句、追悼句

寅彦の晩年、俳句と連句で一番親しかったのが東洋城である。

○病寅日子君を慰む五句（君は腰を、余は風邪を）昭和10年

・秋風や人の病にわが病

・足腰に三つの湯婆^{たんぼ}や冬を待つ *湯婆：ゆたんぼ。

・仰^{あお}に寝て秋の空見る遙かな

・まがつみの背骨にからむ寒さかな *まがつみ【禍罪】：わざわい。災厄。

・時雨るゝ夜歌仙の夢もありぬべし（以上5句『東洋城全句集』中巻）

○昭和11年

・君が席のけふは留守なる冬夜かな（「寺田君と俳諧」『思想』寺田寅彦追悼号）

*寅彦亡きあと、一緒に連句を巻いていた思い出の新宿モナミへ独りで行き詠んでいる。

・山茶花の久の曇りやけふよりは （「寅日子を亡ふまで」『渋柿』寺田寅彦追悼号）

○（寅彦忌）昭和 11 年

・斯の人や吾が曹^{ともがら}の寅彦忌 *曹：同輩。仲間。

・寅彦忌付句の沙汰も独りかな

・卷々の歌仙に悲し寅彦忌 （以上 3 句『東洋城全句集』中巻）

○（君を憶ふ）昭和 12 年

・いたづらにカフェーがぐはし春の宵 （「寅彦追憶予告篇」『寺田寅彦全集』月報 7）

○（寅彦を憶ふ）昭和 14 年

・コーヒーはブラックにして苺かな （「文人寺田寅彦」『科学ペン』）

○昭和 38 年

・寒き身や一人は二人君と我 （「交遊抄 寅彦＋東洋城」日本経済新聞、11 月 13 日）

3. 『渋柿』寺田寅彦追悼号（昭和 11 年 2 月）掲載、同人が「寅彦命を悼む」句

・初裏に寒月仏を仰ぐかな 喜舟 *初裏：連歌や俳諧で初折の裏。

・凍鶴を以て博士を悼むかな 同 *寅彦の姿を鶴に似せたか。

・冬悲し藪柑子忌の今年より 迷堂

・漱石忌にいよいよ寒し寅日子忌 宕山 *漱石忌は 12 月 9 日。

・漱石に会うて枯野を行く君か 兔子

・星隕つや^お 凧^{こがらし}天にみつる頃 十四王

・年の瀬や挙句の春は持越に 九鬼 *挙句：連歌・連句の最後の七・七の句。

・木螺山人永へに冬を籠りけり 黄梅 *木螺山人は寅彦の筆名の一つ。

・冬の夜や無題校正木螺亡く 晨悟

*無題は『渋柿』に連載していたエッセイのタイトル。

・一もとの藪柑子なり捧げなむ 青舟

4. 友人・弟子の句

・こがらしや吹き落されし一ツ星 辰野隆

（「寺田博士のことども」『思想』寺田寅彦追悼号）昭和 11 年

・夢十とせ行く人もなく銀杏散る 宇田道隆

（「あれから十五年」『寺田寅彦全集』月報 5、昭和 25 年、岩波書店）

*寅彦は宇田に丁寧な俳句指導をしていた。

○寺田寅彦忌 十一月二十五日 二句

・柿一つ残る梢に時雨かな 小宮豊隆

・もごもごと苺を喰ひし君が口 小宮豊隆 （以上 2 句『蓬里雨句集』）

（『榭』58 号、松井辰彌「寅彦と流体力学」による、松井氏は昭和 37 年頃と推定）

5. 歳時記などで見つけた寅彦忌の句

寅彦の逝去は昭和10年12月31日であるが、各種歳時記によれば、寅彦忌、寅日子忌、冬彦忌は仲冬の季語になっている。仲冬は、冬の3カ月の真ん中で、旧暦の11月、新暦では12月である。忌日としては、作品にちなむ糸瓜忌（正岡子規、9月19日）、桜桃忌（太宰治、6月13日）、河童忌（芥川竜之介、7月24日）などがよく知られているが、漱石忌（12月9日）や一葉忌（11月23日）など名前を冠した忌日も多い。歳時記（または著書）に採られている寅彦忌の句を紹介する。

- ・漱石としぐれてゆくや冬彦忌 蓑虫

（巻田泰治『寺田寅彦一俳句の窓から』平成24年12月25日、文學の森）

- ・珈琲の渦を見てゐる寅彦忌 有馬朗人（『カラー版新日本大歳時記』冬、講談社）

* 珈琲好きで渦の研究者である寅彦をよく表現している。

- ・珈琲の苦味かぐはし寅彦忌 牧野寥々（『図説俳句大歳時記』、角川書店）

- ・珈琲を書斎に沸かし寅彦忌 岩崎健一（『角川俳句大歳時記』冬）

- ・海鼠凍つ光ふるへり冬彦忌 古谷群象（同上）

* 寅彦の句「人間の海鼠となりて冬籠る」を思い浮かべる。

- ・中折れの板につきたり寅彦忌 高橋克郎（同上）

* オーテピアの寅彦銅像も中折れ帽子を被っている。

- ・雪よりも雨滴つめたし寅彦忌 宇野恭子（『合本俳句歳時記』〈第5版〉、角川書店）

* 寅彦の雰囲気がよく出ているように思う。

- ・枯菊の影に偲ぶや寅日子忌 森貞子（寅彦長女） * 「枯菊の影」は寅彦の小説の題。

（森博芳編『母の遺句集—そして思い出の記』昭和59年11月10日）

6. ネットで見つけた寅彦忌の句

最近インターネットやツイッターで俳句を楽しんでいる方が多い。検索して見つけた句を紹介する。作者名がはっきりしない場合もあるので間違っていたらご容赦願います。

- ・漱石忌すぐ寅彦忌山ま近か 和田悟朗

- ・コーヒーはブラックにする寅彦忌 森武司

- ・しばし待て除夜の珈琲寅彦忌 大辻泥雪

- ・寅彦忌珈琲豆の跳ねる音 野口裕

- ・珈琲豆ゆつくりとひく寅彦忌 ひでこ

- ・珈琲のミルクのカオス寅彦忌 川久保達之

- ・カプチーノの泡に渦巻き寅彦忌 龍夜

* この句の評（都さん）で、有馬朗人「珈琲の渦を見てゐる寅彦忌」を踏まえての「本歌取り」だとしている。そして、「カプチーノの泡」にバリスタたちは様々な絵を描きま

すが、その渦巻きに科学者であり俳人としての寺田寅彦へのオマージュでしょうか、そんな気持ちを感じました。」とある。

・大正に香るコーヒー寅彦忌 今泉忠芳 (句集『日輪馬車のタクト』)

・寅彦忌地軸傾け夕日入る 有馬朗人

*地球物理学者寅彦への思いとスケールの大きさがある。

・忘れずに回る地軸や寅彦忌 小林紀彦 (毎日俳壇、毎日新聞 2018年1月29日)

・寅彦忌地球を照らす月一つ 星田一草

・寅彦忌地球を巡る雲万化 野口裕

・真っ直ぐに煙は昇り寅彦忌 同

・鳶の高みは腕にて測れ寅彦忌 同

*寅彦の随筆「鳶と油揚」と「自由画稿」〔視角〕(下記に引用)を踏まえている。

「自分は高等学校の時先生から大変にいいことを教わった。それは、太陽や月の直径の視角が約半度であること、それから腕をいっぱい前方へ伸ばして指を直角に曲げ視線に垂直にすると、指一本の幅が視角にして約二度であるということであった。それでこの親譲りの簡易測角器械さえあれば、距離のわかったものの大きさ、大きさのわかった物の距離のおおよその見当だけは目の子勘定ですぐに付けられる。」

・間歇泉高く噴き上げ寅彦忌 有馬朗人

*寅彦と本多光太郎が熱海の間歇泉を調査・研究したことを思い出す。

・地球儀と本に座す猫寅彦忌 村田白峯 *地球物理学者で猫好き。

・(寅彦忌)海月^{くらげ}なす湯殿の髪^のの忘れえず 国見弥一

*作者は関連して『椽の実』の言葉「風呂の中の女の髪は運命よりも恐ろしい。」を引用している。

・靴下はふとんの中へ寅彦忌 椿 屋烏

*寒がり、蒲団の中で着替えていたというエピソードを思い出す。

・寅彦忌電車混雑していたる 野口裕 *随筆に「電車の混雑について」がある。

・金平糖の角^{つの}数へをり寅彦忌 有馬朗人

・分銅の震え収むや寅彦忌 鯖好き夫

・触媒となる書の匂ひ寅彦忌 堀田季何

・地震^{ない}ありて読み返されし寅彦忌 重翁

*災害がある度に寅彦の言葉が引用される現状を想う。

・なみの国に年あらたまる寅彦忌 塩田博久

・地震雲らしきが出でて寅彦忌 小林貴子

*雲や虹で地震を予知できるとする説もあったが、なかなか難しいようである。

・寅彦が号は牛頓^{ニュートン}セロリ囃む 体育会系俳人 *忌日句ではないが印象深い。

- ・旧邸の土堀くづれて寅彦忌 西野加寿



寺田寅彦記念館の石堀（尾戸焼の窯跡の石を使用している）

7. 『榊』旧号に掲載された句

- ・天災の警句生きおり寅彦忌 高橋憲一郎 『榊』第7号
- ・借景に城の万緑寅彦館 高橋憲一郎 同上
- ・冬彦のもゆる詩情やのうぜん花 岡崎琴女 『榊』第17号
- ・つづきゆく榊会報寅彦忌 川田朴子 『榊』第28号
- ・邸内に藪柑子あり寅彦忌 岩城鹿水 『榊』第29号
- ・角減りし庭の飛石寅彦忌 山崎三水 同上
- ・科学者に俳諧文学寅彦忌 河添照子 同上
- ・紅椿仰向きて落つ物理学 上森千秋（句集『黒潮』） 『榊』第39号

8. 山田一郎の句碑

寅彦の研究者として著名な山田一郎の句碑が寅彦の祖先の地である高知県高岡郡中土佐町大野見（旧・大野見村）にある。（下の写真）

- ・しぐるるや寅彦冬彦藪柑子

